



# 石川県立羽咋高等学校 関東同窓会会報

第13号

2018/6



平成29年度 総会・講演会・懇親会

# 「故郷と母校を若い力で」

関東同窓会 副会長 浮田 學



志賀・酒見(高19)

仕事仲間の繋がりには微妙な空気感があるように感じます。同じ金の飯を喰うという言葉がありますが、同じ学校の同窓会は勤務時代のそれとは明らかに異なっていると思います。単に先輩と後輩という関係のみで利害は存在しませんし、同期生は長い空白が一瞬にして霧消するようにも感じます。

運転免許更新に高齢者講習の案内が届きました。開封に際して奇妙な感慨を覚え、同時に免許の返納はどうしたものか考えた次第です。団塊世代が高齢者になってきたことの証で講習の予約が混雑して2か月先となり、多摩地区に都心からの参加者が多いことにも驚きました。都心に教習所が少ないことの影響だそうです。

元気な高齢者といわれますが、運動機能、思考力ともに劣化してきている現実を認めることになりました。

阪神淡路大震災当時の上司からの電話で当時一緒に苦労した後輩の訃報を聞きました。勤務を退き其々の地で余生を送る時を迎えて音信も希薄になります。年に一度、地域ごとの懇親会があります。参加の是非は本人次第となりますし、それはそれで意向の範疇ですが、久方の消息が訃報では寂しいものがあります。



高校は出生地も近隣ですので、年に一度の同窓会総会に是非参加して故郷と母校の空気を吸い、仲間との旧交を温め、懇親を深めて頂ければ幸いです。関東同窓会執行部員の唯一の切なる願いですし、これまで組織運営を支えて頂いた歴代の先輩諸兄の活力とその時々への難題に向けた直向きな努力に頭が下がります。

一方で現役執行部員は年々高齢化し、体力と頭脳の衰えは止めようもなく、是非、若手同窓生の参画を念願しています。

# 「新米会長として」

本部同窓会 会長 轟 千栄子



羽昨・川原(高27)

昨年の夏に会長をお引き受けし、この1年足らずの間にいろいろの経験をさせていただきました。母校の卒業式に初めて出席し同窓会長として壇上にあがり同窓生を代表して祝辞を述べたこともそのひとつです。その中で「私たち同窓生は母校の後輩のことを気にかけてみなさんの活躍を自分のことのように喜んでいきます。……各地の同窓会支部の先輩方も故郷を離れ学び、働く後輩との出会いを楽しみにしていることを会長となって各支部の総会に出席してあらためて知りました。今日からみなさんは新しい同窓会の仲間です。心から歓迎します。本部同窓会を始め各支部の総会にぜひ出席してください。」とお話しました。関東同窓会を始めとする各支部総会に出席して先輩方の熱い思いにふれ心からあふれたことばでした。「知らない人ばかりで心細いのですか? いいえ、私がいいます。今年もすべての支部総会に出席します。」「そして若いみなさんが参画してください。」

同窓会を夢んでいます。」と結びました。本部同窓会では今年から卒業生全員に同窓会だよりを送ることにしました。みなさまのお手元にも届いていることと思います。まだ十分な紙面ではないかもしれませんが今まで手にすることのなかったすべての同窓生に届ける。という私の願いが叶いました。秋にはホームページもリニューアルする予定です。各支部の活動報告も掲載していきたいと考えています。

同窓会誌に運営協力金のお願ひも同封させていただきます。運営協力金についてはQ&Aのなかで説明しております。どうぞご覧いただき関東同窓会のみなさまにもご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。すべての卒業生に同窓会誌を送ることができたのも運営協力金の制度が始まったおかげです。本部同窓会も少しずつ動き始めています。

これからも母校、そして各支部のみなさま方との連携を密にして母校がいづまでも生徒たちのあこがれと誇りの対象であり続けるために努力したいと考えています。みなさまのお力添えを心からお願ひいたします。

蛇足ですが数年前から始めたシャンソン、東京で歌う機会には応援に来ていただければうれしく心強いです。